

沼津市議会ホームページを御覧いただき、ありがとうございます。

令和5年5月の臨時会において第87代議長に就任した高橋達也と第103代副議長に就任した久保田吉光です。令和5年度は本市の市制施行・市議会開設ともに100周年を迎えます。

沼津市は、1923年に沼津町と楊原村とが合併しスタートしたわけですが、この100年間を振り返りますと、これまで常に安定した時ばかりではありませんでした。合併の年の9月には関東大震災が起り、第二次世界大戦末期の1945年には沼津大空襲があり、実に市域の89.5%が破壊され、多くの市民が絶望の淵に立たされました。また、高度経済成長期の1960年代には石油コンビナートの立地計画が持ち上がり、これに反対する住民運動が高まる中、独立自尊をもって市政運営にあたる厳しさと重要さを体験し学びました。

その後、バブル経済の崩壊やリーマンショックを経験し、さらに多くの自治体でも見られるように本市においても少子高齢化が進み、郊外型の大型商業施設が進出するなど、従来の社会構造や産業構造に大きな変化が生ずる中、市内産業や市民一人一人の生活は徐々に打撃を受けました。しかし、その中でも本市は何とか成長を実現してまいりました。

そのような中、沼津駅周辺総合整備事業が、都市再生をかけて官民一体となって推進され、この事業の課題や進捗に関しては本市議会において近年常に活発な議論がなされてまいりました。

さて、私たちは先の統一地方選挙の結果により、次の100年が始まるこの瞬間この時に、沼津市議会議員として仕事をする事ができるという栄誉を得ました。全ての議員が「市民生活の利便性の向上」と「将来の沼津の魅力の創出」のために全力で議員活動を行っていく覚悟を持っています。もちろん、正副議長の私たちも同じです。沼津市議会と沼津市長をはじめとする執行機関との関係は「車の両輪」の関係と言われます。私たち議会は議決機関として、執行機関の政策をチェックし、市民の声を市の施策に反映させ、市長とともにより良い沼津市を作っていく役割を求められています。しかしながら、その両輪は離れすぎているはいけません。また、私たちは市議会という組織として議会側の車輪をしっかりとテンポよく回していかななくてはなりません。

沼津市議会と沼津市長の両輪をしっかりとリズムよく回していくことが、市民生活の利便性の向上や沼津市の魅力創出に繋がることと思います。

そのために重要なポイントは3つあると考えています。

1つ目は活発な議論の展開です。

議員それぞれが言論による議論をより活発にすること。多くの議員が本会議や委員会で活発に自らの意見を表明し、他の議員の活発な意見にも真摯に耳を傾けることが何より大事です。

2つ目は議員同士の信頼関係の構築です。

信頼関係があつてこそ自らの意見を人にぶつけることができるのだと思いますし、信頼関係があつてこそ人の意見をしっかりと聴き、吟味する気持ちが湧いてくるのだと思います。また、人同士の信頼関係は一日でできるものではありません。日頃から議員同士の信頼関係の構築に心を砕くべきだと思います。

3つめは市民に開かれた議会を作ることです。

議員一人一人が多くの市民の代表者であることを自認し、より多くの市民に自らの考えや議会での議論の現状を正確に伝える事に努めていきたいと思っています。私たち議員は市民全体の奉仕者たるべきという事は言うまでもありませんが、市民全体に対し情報提供を行うという点では、これまで課題を山積したまま時間が過ぎていているのは私たち議員だけではないと思っています。

以上、私たち議員なりの議会の車輪を回すうえで重要と思う3つのポイントを述べさせていただきました。前24期の議会運営等検討協議会などでも話し合われてきたように、沼津市議会には改善や改革が必要と思われることも多くありますが、この3点をしっかりと意識し、今期は、より強く、より開かれた議会を作り、市民の負託にしっかりと応えていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

令和5年6月1日

沼津市議会

議長 高橋 達也

副議長 久保田吉光